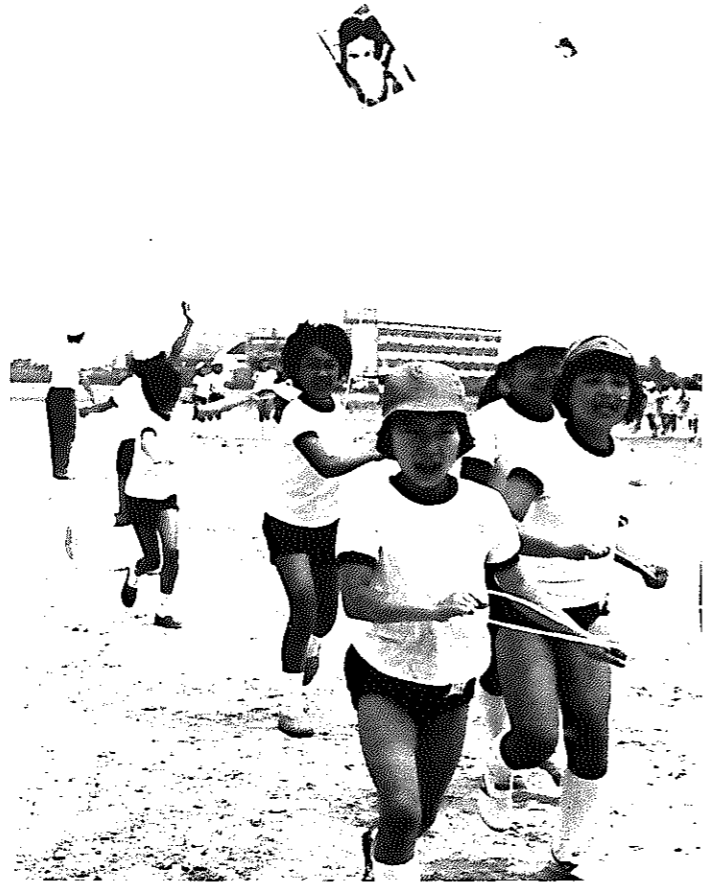




白根小学校



私たちも白根っ子。男子には負けないわよ

凧上げで燃える白根っ子を育てる



「凧を見ながら走れ」6年生になると、大人顔負けの上げ方をします



放課後、先生と一緒に鼻緒立て

大凧の絵柄が多い中で、先生の顔を図案化した凧も登場

白根小学校（平松正治校長・児童数二百六人）では、今年も五月二十九日、校内凧上げ大会を総合体育施設グラウンドで行いました。五月から六月にかけて白根の町は凧に彩られ、子供たちも思い思いの凧を作りグラウンドで上げ出す。こんななかで、「児童会主催の凧上げ大会をやるう」との声が子供たち、先生から出され、五十一年からこの大会が始まりました。

四年生以上が参加し、各クラス男女ごとに凧を作り、上がり具合、絵柄のきれいさを競い合います。凧作りは、五月の初めから放課後などを利用し、子供たちと担任と一緒に取り組みます。凧の絵柄は自由で、中には担任の顔を図案化したものも。骨組み、鼻緒立てなど、他のクラスに負けまいと、みんな一生懸命です。六年生になると、凧作りはもうお手のもの。「先生、鼻緒はこうして立てるんだよ」と、先生に教えるクラスもあります。

いろいろ創意工夫しながらできあがった凧が、大空高く舞い上がったときは、子供たちもとても満足そうです。

こうした学校行事が、地域社会に根つき、白根の伝統行事「大凧合戦」の後継者づくりに役立つことを期待したいものです。

積極性を伸ばす環境づくりを

平松正治校長



素直で、礼儀正しい子供たちばかりです。いい面を伸ばしていきたいと思えます。ただ、少し積極性に欠ける面が見受けられます。何事にも進んでやる子を育てていくためにも、我々教師が子供たちの積極性を引き出す環境をつくっていか

なければと考えています。今の子供は生気がないとか、一つの事に対して持続性が欠けていると言われますが、校内凧上げ大会で、一つの目標に向かってクラス全員が一丸となって見せた情熱を、勉強やクラブ活動などの面にも燃えさせていきたいものです。千二百人の子供たち全員が、常に一歩ずつでも前進しつづけられるよう心がけています。

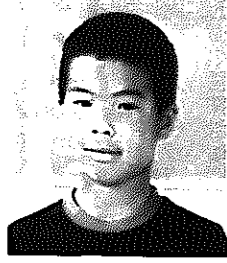
らぶぞ



-  高野隆行くん 5年生
-  鈴木麗子さん 6年生

白根小はクラブ活動が活発です。私は、文芸クラブに入っていて、童話や絵本を作っています。学校生活の中で一番の思い出は、何となくも修学旅行。夜遅くまで友だちとおしゃべりしていました。

凧作りは大好きです。もう一人で作れるよ。ぼくの担任の和田先生は、やさしくて、凧作りの名人です。日本ハムの江夏投手の大ファンで、将来はプロ野球の選手になりたいと思っています。

-  笠原正人くん 3年生
-  佐藤政邦くん 4年生

今年の校内凧上げ大会で、ぼくのクラス（男子）が作った凧「宮本武蔵」は、きれいで賞をもらいました。今、マンガクラブに入っています。ガンダムの絵をかくの得意なんだよ。

凧作りは大好きですが、まだ小さな凧しか作れません。四年生になると、クラスで大きな凧を作れるので、今から楽しみです。それに、クラブにも入れます。野球クラブに入ってがんばります。